

## 別紙標準様式（第7条関係）

## 会 議 録

会議の名称	令和6年度 第3回総合交通計画推進協議会	
開催日時	令和7年1月30日（木）	10時00分から12時00分まで
開催場所	枚方市役所 別館 第3・4委員会室	
出席者	<p>会長：土井委員</p> <p>委員：北川委員、定藤委員、山本委員、谷川委員、加藤委員、佐竹委員、北尾委員、竹下委員、三谷委員、釈迦戸委員、浅岡委員、片島委員、明智委員、長尾委員、北西委員、迫間委員、田村委員</p> <p>関係者：中嶋氏（白石委員関係者）、大前氏（青山委員関係者）、井本氏（江藤委員関係者）</p>	
欠席者	猪井委員、白石委員、青山委員、中村委員、江藤委員、浜田委員	
案 件 名	枚方市総合交通計画（案）について	
提出された資料等の名称	<p>資料1-1：パブリックコメント結果</p> <p>資料1-2：枚方市総合交通計画（案）</p> <p>資料2：各事業者からの情報提供など</p> <p>資料3：今後の予定</p>	
決 定 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックコメント結果について、委員意見を踏まえ事務局で修正する。</li> <li>・資料1-2計画（案）の内容で、計画策定の手続を進める。</li> </ul>	
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開	
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表	
傍聴者の数	0名	
所管部署（事務局）	土木部 土木政策課	
審 議 内 容		
<p><b>【開会】</b></p> <p>会 長     : ただ今より令和6年度第3回枚方市総合交通計画推進協議会を開催する。</p> <p>          : 前回の本協議会は昨年10月に開催し、枚方市総合交通計画（素案）について、ご議論をいただいた。その後、事務局において12月にパブリックコメントを実施し、多くの市民の方々からご意見をいただいた。本日の協議会では事務局が取りまとめたパブリックコメントの結果を報告いただき、枚方市総合交通計画（案）についてご議論いただきたい。</p> <p>          : それでは、事務局より、本日の委員の方の出席状況と、傍聴希望者の人数の確認をお願いする。</p> <p>事務局   : 本日の委員は総数24名中18名の出席となっている。そのほか事務局側に本計画改定</p>		

業務の受託者である日本工営株式会社から3名出席している。傍聴希望者は0名である。

会 長 : 前回までは傍聴の方もいらっしゃったが、本日はいらっしゃらないとのこと、了解した。本日の議事録は公表していくということでご了解をお願いしたい。

**案 件： 枚方市総合交通計画（案） について**

会 長 : 事務局から「枚方市総合交通計画（案）」の説明をお願いする。

事務局 : (資料1-1「パブリックコメント結果」、及び資料1-2「枚方市総合交通計画（案）」について説明。)

会 長 : ただ今説明を受けた内容について、ご質問・ご意見があればお願いしたい。  
まず、私からコメントさせていただく。パブリックコメントの量の多さに驚いた。意見者数126人ということで、多くの市民の関心がある。私の経験上、これだけたくさんパブリックコメントをいただくことはあまりない。市民が関心を持っているということは、市の行政にとって良いことかと思う。これまでの協議会にも傍聴にお越しくくださった市民の方がいる。今後この計画を実行していくときに、味方になっていただける方が多くいらっしゃるということだと考えられる。市民の多大な関心のもとに計画を作成することで、実際の行政の活動にも反映されることになるので、非常に重要なことと考える。

委 員 : パブリックコメントの意見数の多さに驚いた。ありがたいことだと思う。  
一番件数が多かった、「『ひらかたポイント』の付与ではなく、高齢者への直接の運賃助成が必要である」という意見に関して伺う。件数が多いので、どこかの団体からのご意見かとも考えられる。枚方市の考え方には、ひらかたポイントを京阪バスポイントや大阪タクシー共通乗車券に交換することができるとの記載がある。ポイントが使いにくい、お得感がない、交換がインターネットでしかできず高齢者の利用者が使いにくい、といった要因があり件数が多くなっているのではないかと。ひらかたポイントがどのようなものかという点も含めて、事務局の見解をお聞きしたい。

事務局 : ひらかたポイント事業は、市民の健康増進を目的に実施している。カードやスマホアプリを通じて、健診受診や歩くことによってポイントが付与される。バスやタクシーの利用にポイントを使えるが、メインとしては協力店での会計に使われている。バスポイントやタクシー共通乗車券に交換するのが面倒だという意見をいただいている。

会 長 : ひらかたポイントが使いにくいからこのような意見が出ており、ひらかたポイントの使いやすさを向上させて欲しいというようにも捉えられる。また、ひらかたポイントの紹介にあたっては、ひらかたポイント事業の意義を市民に知ってもらう工夫を行うと良い。ひらかたポイントは枚方市でしか使えないが、地域の経済活性化につながる取り組みである。品揃えは他のサービスに負けていても、地元の店舗を利用することで、そのお金がまわりまわって自分の活動の役に立つものとなるという地域経済の循環に寄与するという示し方もできるのではないかと。私もホームページの説明を見たが、事業の意義が分かりにくかった。ひらかたポイントの意義を理解していただければ、今回のご意見が違った形になったのではないかと思う。

委 員 : イギリス等の海外では、移動は基本的人権として確保されるべきという考え方があ  
る。移動のインセンティブとしてポイントを付与していくことの意義はあると思う  
が、基本的な移動保障をきちんとしてほしいというご指摘ではないかと思う。ひらか  
たポイントの使いやすさとは分けて考えるべきである。

会 長 : 移動の保障という点は、本計画全体で貫かれている内容である。「誰一人取り残さな  
い」という SDGs の理念を、言葉としては出てこないが、枚方市総合交通計画におい  
ても目指しているところはそこかなと思う。その実現のために、行政だけでなく、市民  
も一緒になってやっ払いこう、ということが計画理念に表れている。例えば、ちょっ  
と面倒でも、車で行けるところでもバスに乗りましょう、というようにお互い力を合  
わせていくと良い。みんなで公共交通を利用しないと、サービスがなくなっていく可  
能性がある。

委 員 : パブリックコメントのご意見がたくさん寄せられており、市民の関心が高いと感じ  
た。  
比較的件数の多い「行政における路線バスの減便対策、運転手不足、不採算路線への  
運営支援が必要である」及び、「行政が事業主体となったコミュニティバスやオンデ  
マンドタクシーなどの導入により、市民の足の確保が必要である」という意見に関し  
て伺う。  
近隣他市でもバス路線の廃止が行われている。枚方市内での大幅なバス路線廃止はこ  
こ数年無い状況であり、バス路線の廃止による市民の利便性低下は起こっていないと  
認識している。コミュニティバスとオンデマンドタクシーの導入は、地域によっては  
以前から要望があった。仮に路線バスが廃止になったら代替手段を確保する必要があ  
る。このような場合も、地域主体の交通による移動手段の確保という考えしかなく、  
代替手段として市が公的な輸送サービスをするという考えはないのか。

事務局 : 枚方市においては、他市に比較すると路線バスを何とか維持していただいている状況であり、まずは今ある路線バスを維持していくことを最優先に注力していく。今後、公共交通の置かれる状況は厳しくなっていく。今の状態にあぐらをかくのではなく、今後、面的に交通空白地域が出てきた場合は、地域特性やニーズを踏まえて新たな交通手段を検討していく必要があると考えている。本計画においても、地域の足の確保、公共交通を補完する移動手段の確保について記載している。

委員 : パブリックコメントへの回答に、「既存バス路線との競合を避けた形で公共交通を補完」と記載があり、非常に大事なことだと思う。既存バス路線が無くなったからコミュニティバス等を走らせるという事態は避けるべきである。もし、コミュニティバス等を導入する場合、あくまで補完でないと、既存路線バスの利用が減少し、交通空白地域が増える悪循環になることが懸念される。どこでも移動が楽にできる枚方市を目指していくべきである。市民もマイカー移動を控えて公共交通利用を心掛けていく必要があり、それを呼び掛けるキャンペーンを行うことも有効だと思う。今のネットワークを維持していく中で、もっともっと発展があり得るのではないかと思う。

会長 : 日本中、路線バスの減便廃線問題で頭を抱えている。そうなる前に手を打つことが大切である。路線バスや鉄道に注目して、たまにでも良いので利用しようという気持ちがあると良い。利用者がいないと減便廃線の可能性が高い状況になる。市民と一緒にあって利用促進に取り組めると良い。

委員 : 「地域ごとの交通に関する懇談会やワークショップの開催による市民意見の反映が必要である」という意見に対する枚方市の考え方で、アンケートや協議会を実施しているとの記載があり、市民の声を反映する仕組みが既にあるという趣旨と理解した。しかし、市民意見の反映の場は限られていることが課題であると感じている。行政が過保護気味な仕組みが作られてしまっている感じがあり、市民から意見はでてきているが、意見に対して「修正できないこと」が多すぎると感じてしまう。例えば今回のパブリックコメントでも、オンデマンドタクシーがあった方が良いという意見に対して、既存の路線バスを維持していくことを優先するので却下、計画案の修正はなしという感じになっている。このような状況では市民がクリエイティブなアイデアを出しづらい。できないことをできるようにする、より市民の声が行政に届いて、一緒になって考えていけるような体制になれば良いと思う。

事務局 : 今回の計画改定に至るまで、様々な方との意見交換を行った。本市では出前講座として、自治会の集まりに参加して、交通計画の改定や枚方市の交通の現状について説明

し、その延長で市民の方からご意見をいただくこともある。このような機会も増えていくと思うので、積極的に市民のご意見をお聞きして、中間見直しの際にもご意見を取り入れていく形で今後も取組んでいく。

委員 : ただ単に、意見交換の機会を増やすだけではなく、意見聴取の場（ハコ）をつくって、市民からの意見をもらう姿勢を示し、市民がアクションを起こせば市も動くのだと思える体制ができると思う。

会長 : 出前講座で話をするということだが、地域からのリクエストがあったら出前講座をするのか、市から自治会へ働きかけをしているのか、関わり方が分からなかったので、説明をお願いしたい。

事務局 : 市のホームページで出前講座のテーマを載せている。自治会からの依頼があれば出前講座を実施するというスタンスとなっている。

会長 : ホームページ以外でも知ってもらえる機会があれば良いので、もう少し積極的に取組むと良いと思う。

委員 : 出前講座を何件くらい実施されているか。計画策定後も市民にどのように公表していくかが大事である。公共交通をテーマにタウンミーティングを実施することを考えるなど、検討の余地があるのではないかな。

事務局 : 出前講座の明確な件数はすぐには分からないが、去年は数回実施しており、直近は今月に開催している。

委員 : 出前講座については、個人的には押しかけてでも実施していくべきだと思う。蓋を空けてみたら大変な問題なのだと認識されることもよくある。

「本市の公共交通ネットワークは近隣市よりも充実しています」という表現も気になる。近隣市より酷くなったら取組む、バス路線がなくなったら穴埋めするという発想ではなく、自主運行型交通をどうしていくのかなど、一歩先を行かないと、市全体でうまくいかなくなっていくのではないかな。

会長 : 計画内容を変えるというよりは、実際の実践で市民の側に寄り添いましょうというご意見かと思う。多くの人に知ってもらう事はとても大事なことである。今月、枚方市の市議会議員の皆様へ公共交通の重要性について90分間話しをした。質問も多く、市議会議員にとっても交通は重要な問題と捉えている方が多い。市議会議員も一緒に

なって、本計画の内容を知ってもらうように、計画策定をきっかけにして市民とコミュニケーションを図る取組みがあると良い。

委員 : 交通は、枚方市にいる全ての人がステークホルダーと言えるくらい裾野の広いテーマであり、計画の重要性を実感した。改めてパブリックコメントの中身を深掘りしてみるとリアルな意見が多く、私自身も共感できる意見が多い。経済界の立場で、交通網の利用シーンといえば、市民や通勤者などの人の移動のほか、トラックなどの物流交通があり、交通網は血管のようなものである。今年は関西万博が開催される。交通事業者は尽力されているところと思うが、世界中の人々が大阪にやってくる。枚方市を世界の方に認知していただくために、ひらかた万博をされ、観光交流都市として発展させていこうとしている。そのため、観光者の足という観点が必要かと思っている。

「生活道路や踏切道の安全対策と高架化（特に御殿山駅）が必要である」という意見があるが、御殿山駅の踏切は本当に危険だなと感じており、渋滞の原因にもなっている。莫大な資金がかかることはあるが、何もしないのではなく、引き続き検討しますくらいのニュアンスにした方が良いのではないか。

本計画案の理念にある多少の不便や負担を分かち合うというのは、政府の自助・公助の考え方から来ているものかと思う。御殿山駅の踏切は自助でどうにもならないと考える。パブリックコメントの意見のうち、自助ではどうにもならない部分の意見を仕分けして、自助でどうにもならない部分は行政での検討課題としていくというような回答のニュアンスの方が良いのではないか。

事務局 : 御殿山駅の踏切について、これまでより危険性は認識している。地域の方と意見交換やワークショップを実施して対策を講じてきた。今後、踏切内のカラー舗装を実施し、歩行者と自動車を分離する対策を考えている。また、京都守口線との交差点の通行方法について、府道に案内看板を設置する等の取組みを実施している最中である。高架化については、現時点では寝屋川市～枚方市駅間の連続立体交差事業の用地買収に注力しており、「御殿山駅周辺の立体交差化を検討する」とまで踏み込んだ記載はできない。

また、自助で追いつかなければ公助というご意見があった。公助の前に共助があると考えており、ボランティア輸送がそれにあたる。ボランティア輸送に対しては補助も実施しており、市として支援していきたい。

委員 : せっかくいただいたパブリックコメントの意見なので、1個ずつ見て、自助・公助・共助を分けて、公助・共助の部分において、今は市としての対応が難しいが検討課題としていくなど、丁寧に市民のご意見への対応をしていただけると、より良い交通計画になると思う。

会 長 : 行政計画なので、行政としてやらなければならないことがきちんと記載されている。行政で及ばないことは、共助・自助で対応していく話もこの中に盛り込まれている。ただし、自助の話がたくさん計画に入れてしまうと行政計画として成り立たなくなってしまう。また、パブリックコメントの意見をうまく公助・自助・共助で分けることは困難である。そのため、計画の策定過程でご意見があったことはきちんと記録として残し、今後行政と市民の皆さんとが話をするときに活かしていくという扱いにしたい。

なお、御殿山駅の踏切に関しては、いま事務局が説明されたことをパブリックコメントの回答に記載してはどうか。市として危険が減るようにアクションを起こしていることを伝えた方が、市民も安心すると思われる。

事務局 : 承知した。御殿山駅の踏切の件へのパブリックコメントの回答を修正する。

委 員 : 渋滞解消の継続実施をお願いしたい。実施にあたっては、莫大な費用がかかることと思われる。渋滞解消に向け、あまり費用をかけずに実施できることを進めてもいいのではないかと。例えば、片側1車線の道路で対向車通過待ちの右折車が1台いるだけで大渋滞になることがある。1~2台くらい滞留できる右折レーンを設けることができれば、大きな費用を掛けずに対策できるのではないかと。ボトルネック解消の検討をお願いしたい。

事務局 : 公共交通の交通環境を良くしていくことが利用促進に繋がっていくと考える。ボトルネック交差点の改良は重要なハード整備であると認識している。計画の中でもボトルネックの解消という記載があるが、片側1車線道路で右折車が滞留してしまう箇所があることも認識している。関係機関と連携し、ボトルネック解消に取り組んでいきたい。

会 長 : パブリックコメントの結果、及び枚方市総合交通計画（案）は概ね了承ということで、よろしいか。

なお、パブリックコメントの結果のうち、御殿山駅の踏切に関するパブリックコメントの回答は事務局で整理のうえ、修正内容の確定は会長に一任いただくこととしたいがよろしいか。

【委 員 賛 同】

会 長 : 本協議会における計画策定についての議論は終了となる。計画策定で終わりではな

く、これからが本番である。市民と連携して、委員の皆様が計画実現に取り組んでいくことをお願いしたい。

**報 告 : 各事業者からの情報提供など**

委 員 : (近畿地方整備局都市整備課より、国土交通省における立地適正化計画制度、コンパクト・プラス・ネットワークの取組みについて報告。)

委 員 : (大阪国道事務所北大阪出張所より、枚方市内での直轄国道での交差点改良の取組状況について報告。)

委 員 : (大阪運輸支局より、「交通空白」解消本部、及び「交通空白」解消・官民連携プラットフォームの活動状況について報告。)

委 員 : (大阪府交通戦略室より、路線バスの運転士確保の取組状況等について報告。)

委 員 : (大阪府枚方土木事務所より、管内の道路整備事業について報告。)

事務局 : (枚方市駅高架下の相互通行、北口駅前広場の改良工事について報告。)

委 員 : (西日本旅客鉄道株式会社より、自社線の利用状況・収支状況、チケットレスサービスについて報告。)

委 員 : (京阪電気鉄道株式会社より、ダイヤ変更予定、旅客運賃の改定に向けた申請について報告。)

委 員 : (京阪バス株式会社より、枚方営業所移転、ダイヤ変更予定について報告。)

委 員 : (大阪タクシー協会より、大阪タクシー協会の支部制の導入、近隣他市のデマンドタクシー・乗合タクシー等の導入状況について報告。)

委 員 : (北大阪商工会議所より、2024年問題に関する講演会の実施状況、ひらかた万博のイベント内容、共通駐車券システムについて報告。)

委 員 : (ひらかた環境ネットワーク会議より、第34回バス!のってスタンプラリーの開催結

果について報告。)

会 長 : 最後に、市民団体や公募市民の委員から協議会への感想などをいただきたい。

委 員 : パブリックコメントの件数の多さにびっくりした。交通渋滞が発生しているのが気になる。お年寄りが元気に暮らしやすい枚方市になっていてもらいたい。

委 員 : 市民団体で地域輸送をやりたいという申請が過去にあったが、うまく続かなかった。ボランティア輸送や地域自主運行のあり方はもう少し具体的な議論ができたらと思う。福祉輸送は対象が限定されること、通院目的の方が多いので、地域の足づくりをどうしていくか深い議論をしていきたいと改めて思った。

会 長 : 公共交通は福祉と密接に関連する分野である。これからも良い接着剤になっていただければと思う。

委 員 : 色々な情報や知見を教えていただいた。公共交通のなかでも特にバスの問題は深刻になっている。交野市のように路線バスが大幅に減った事例もある。枚方市も今後バス事業者もしくは運転者への直接的な補助など具体的な支援の検討をお願いしたい。

委 員 : まずは「ありがとうございます」と感謝の気持ちをお伝えしたい。市民の一意見がこのような場でしっかりと議論されている様子を間近で見られた。一つのアイデアだけではなく、プロの委員の方々の様々な目線があり、大きな計画が実現していくのだと思う。一人一人が他人事ではないと自覚し、枚方市で自分にできることは何か考え、生きがいや誇りを持てるように励んでいきたい。

#### 【今後の予定について】

会 長 : 「今後の予定」について事務局より説明をお願いします。

事務局 : (「今後の予定」について説明。)

今年度中に本計画(案)を以て、計画策定・公表を行う予定である。

本計画は都市・地域総合交通戦略要綱に基づいて作成しており、国土交通大臣の認定の申請を並行して行う予定である。

また、令和7年度は秋頃と年度末の2回の推進協議会の実施を予定している。

事務局 : 閉会にあたり、事務局を代表して土木部長の田村よりご挨拶をさせていただきます。

2年間で5回の協議会を実施し、委員の皆様の貴重なご意見をいただいた。本日も、専門的なご意見、市民を代表するご意見をいただいた。この2つが相まって、皆様のおかげで良い総合交通計画になったと思う。先ほど会長や委員の皆様から発言があった通り、計画を作って終わりではない。この計画をいかに実りあるものにしていくかは、今後にかかっている。市民委員の浅岡様、片島様は今回で終了となるが、新たな市民委員の公募を踏まえ、専門の委員の皆様も含め、ご意見ご指導をいただき、実りある計画にしていきたい。来年度も協議会を通して、計画の進捗を図っていきたい。以上、本市を代表しての挨拶とさせていただきます。

会 長 : これをもって、令和6年度第3回枚方市総合交通計画推進協議会を閉会とさせていただきます。

以上